忠生地区基礎 資料



2022 年度 町田市地区別懇談会

基礎資料につきましては、開催日当日に使用する資料ではありません。 ご参加いただく皆様に事前にお目通しいただけるよう、地区の概況を まとめた資料となっております。

1. 過去5年間の取組み等を踏まえた地区のまとめ

2015 年度実施の 第3次町田市地域福祉計画 策定のための住民懇談会 で出た地区の課題

P.7 参照

地区活動計画 2016 年度版に 記載の地区の方向

代活で

1が地域に関わる動をするためて困っている人も

2われるような仕掛けづくりが必要である2めの拠点の整備が必要であるへを専門機関へつなぐ仕組みづくりが必要

か必要であるなぐ仕組みづくりが

が必要である

P.7 参照

高齢化への対策が 必要である

障がいの方への支 援、理解が必要

孤立化している人が いる

子育て中の親への 支援が必要である

地域活動の担い手 が不足している

町内会・自治会の加 入率が低い 担い手 がいない

新旧住民の交流が 進んでいない

活動場所・拠点が少 ない

交通の便がよくない

●地域の居場所づくりを中心に、話し合いを行って きました。 多地地 世域域

●様々な分野の施設が持つ地域資源情報をまとめ た「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」ができまし た。

2017~2019 年度 地区別懇談会

P.7-8 参照

●地区別懇談会に福祉施設関係者が参加して、地 域とのつながりができました。

話し合いの意見を踏まえた今後の方向性

①地域資源マップのブラッシュアップを行います。 ②地域資源マップの活用方法を検討します。





地区の概要・ 現状データ

P.3-6 参照

- ●75 歳以上人口が増加し ています。
- ●要介護認定者数が増加 しています。
- ●自然環境が豊かでい て、様々な分野の施設 が充実しています。 特に障がい者・福祉施 設が多い地域です。



地区協議会の 取組み

P.15 参照

- ●2015年5月に設立。
- ●30 団体が加盟。 (オブザーバー除く)
- ●ホームページ等の広報 事業のほか、交流親睦 事業にて「忠生子どもフ エスティバル」を開催。

2020 年度 地区別アンケート

P.9-12 参照

「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」とコロナ禍における地域 活動の状況について

●「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」の活用法、改善について、具体的な意見が多数寄せられました。

アンケート結果を踏まえた 今後の方向性

- ①地域住民の資源マップを 活用します。
- ②住民主体の活動拠点の活用を進めます。

5年間を通して 生まれた取組み

P.13-14 参照

●地域資源、身近にある 集い場情報の追加した 「わがまち知ろうマップ (資源マップ)」ができま した。

タウンミーティング の結果 P.21 参照

住みたい(なりたい) まちの姿について

●「地域とのつながり」、「子 どもの遊び場・居場所」と いった意見があがってい ます。







市民アンケート調査

P.16-20 参照

●地域活動・ボランティア活動に参加していない人に、その 理由や参加しやすい条件を聞いたところ、活動場所の有 無や距離よりも、「仲間や友人がいること」が重要視されて います。

参加していない理由では、「町内会・自治会に加入していないため」、「身近に活動グループや仲間がいない」の回答が全体より高なっており、「仲間や友人がいること」との関係性が見受けられます。

●また、住民同士の協力関係づくりで必要なことでは、「課題 共有の組織・団体」の回答が全体より高くなっており、この 点についても「身近に活動グループや仲間がいない」こと が関係している可能性も考えられます。

過去5年間の取組み等を踏まえ 見えてきたこと

①「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」の 更なる拡充・活用と地域活動の場づくり

- ・ 地区別懇談会を通じて、「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」ができ、多くの地域資源が 整理されました。
- ▶ 以上のことから、「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」の情報の拡充や具体的な活用方法を検討しながら、引き続き地域活動の場づくりについて考えていくことが考えられます。

②イベント等を活用したつながりづくりと 地域での交流の促進

- ・ 市民アンケートから、地域活動・ボランティア 活動への参加条件として、「仲間・友人がい ること」が重要だと分かりました。
- タウンミーティングでは、地域のつながりづくりのきっかけ、親子で参加できる地域のイベント等の声があがっています。
- ・ 小山田桜台では、空き店舗を活用し「ほっと スペースさくらさくら」「地域交流スペースより みち広場」が立ち上がり、多世代交流の場と なっています。
- ▶ 以上のことから、つながりづくりや仲間づくりができるイベント・企画が今後さらに増えていくよう具体的に検討・実施し、より一層地域での交流を図ることが重要と考えられます。

③地域と福祉施設の協力・連携による困り ごとを抱える人を支える仕組みの検討

- · 75 歳以上の方や要介護認定を受けた方が 増えています。
- ・ 地区には豊富な福祉施設があります。
- ・ 忠生地域では、車等に乗れなくなると外出が 困難になるという声をうけ、『お買いものバス かしのみ号』の定期運行が、地域の方々(地 域住民、サービス事業所、地区協議会など) の協力により実現しました。
- ▶ 以上のことから、地域と福祉施設の協力・連携を進め、移動支援のさらなる充実や新しい取り組みなど、地域で困りごとを抱える人を支える仕組みについて継続して検討・実施することが必要と考えられます。

2. 地区の概要・現状データ

<忠生地区の該当町名>

小山田桜台 1~2 丁目、上小山田町、下小山田町、図師町、忠生 1~4 丁目、常盤町、根岸 1~2 丁目、根岸町、矢部町、山崎 1 丁目、山崎町

(1)5年間の地区の変化と市全体との比較

<5年間の地区の変化>

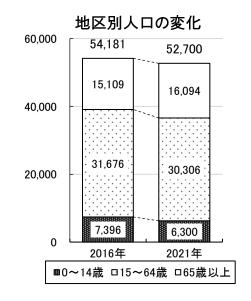
- ●地区内総人口の減少(P.4「地区内総人口」参照)
- ●75歳以上人口(後期高齢者)の増加

(P.4「人口」参照)

●要介護認定者数の増加(P.4「要介護認定者数」参照)

く町田市全体との比較>

●市全体より65歳以上人口の割合が高い(P.4「人口」参照)



(2) 忠生地区の概要

<人口>(2021年10月1日現在)

●52,700人

(14歳以下の割合:12.0%、65歳以上の割合:30.5%)

<特徴>

- ●北部は多摩丘陵の自然が広がっており、公園や農地等、都市圏にありながらも 自然豊かな環境が維持されている。
- ●子育て関係と、高齢者・障がい者関係施設が充実している。また、高校が4校、 大学が1校ある。
- ●65歳以上人口の割合は市平均より上回っている一方で、要介護認定率は市平均を下回っている。

<主な資源>

高校·大学:高校4校、大学1校

高齢者支援センター:2か所

あんしん相談室:1か所

・地域子育て相談センター: 1か所

子どもセンター:1か所

障がい者支援センター:1か所

(3) 忠生地区の現状データ

		忠生地区		町田市全体	
		2016年度	2020年度	2016年度	2021年度
	地区内総人口	54,181人	52,700人	428,203人	430,607人
	O 445	7,396人	6,300人	55,977人	51,516人
	O~14歳	(13.7%)	(12.0%)	(13.1%)	(12.0%)
	15~64歳	31,676人	30,306人	261,697人	262,247人
占		(58.5%)	(57.5%)	(61.1%)	(60.9%)
		15,109人	16,094人	110,528人	116,844人
		(27.9%) 6,730人	<u>(30.5%)</u> 8,283人	(25.8%) 53,117人	(<u>27.1%</u>) 63,573人
	75歳以上(再掲)	(12.4%)	(15.7%)	(12.4%)	(14.8%)
ш	世帯数	23,512世帯	24,227世帯	192,005世帯	202,737世帯
世帯	世帯あたり人口	2.30人	2.18人	2.23人	2.12人
	要支援1	274人	469人	2,773人	4,170人
	要支援2	276人	321人	2,057人	2,500人
要	要介護1	528人	694人	4,327人	5,435人
介業	要介護2	429人	425人	3,398人	3,411人
要介護認定者数	要介護3	321人	322人	2,394人	2,734人
者	要介護4	275人	326人	2,224人	2,841人
数	要介護5	250人	256人	2,057人	2,131人
	合計	2,353人	2,813人	19,230人	23,222人
	参考:要介護認定率 ※1	15.6%	17.5%	17.4%	19.9%
	認知症高齢者数 ※2	1,282人	895人 ※6	10,040人	7,286人 ※6
陪	身体障がい	1,649人	1,604人	11,808人	11,544人
がが	知的障がい	489人	527人	3,117人	3,253人
障がい者数	精神障がい	564人	808人	3,698人	5,378人
数 ※3	合計	2,702人	2,939人	18,623人	20,175人
***	人口に占める割合	5.0%	5.6%	4.3%	4.7%
自町	団体数	26	25	226 (309)	220 (310)
自治会※4・	加入世帯数	10,317世帯	9,707世帯	89,566世帯 (103,595世帯)	83,872世帯
	加入率	44.3%	40.1%	47.0% (54.3%)	(98,255世帯)
団地	参考:団地人口 ※5	10,135人	9,129人	36,225人	32,997人
地	参考:団地世帯 ※5	5,127世帯	4,924世帯	20,525世帯	19,905世帯

〇人口、世帯数: 各年10月1日現在(住民基本台帳に基づく)(総人口には年齢不詳1人を含む。)

〇要介護認定者数、認知症高齢者数:各年10月1日現在

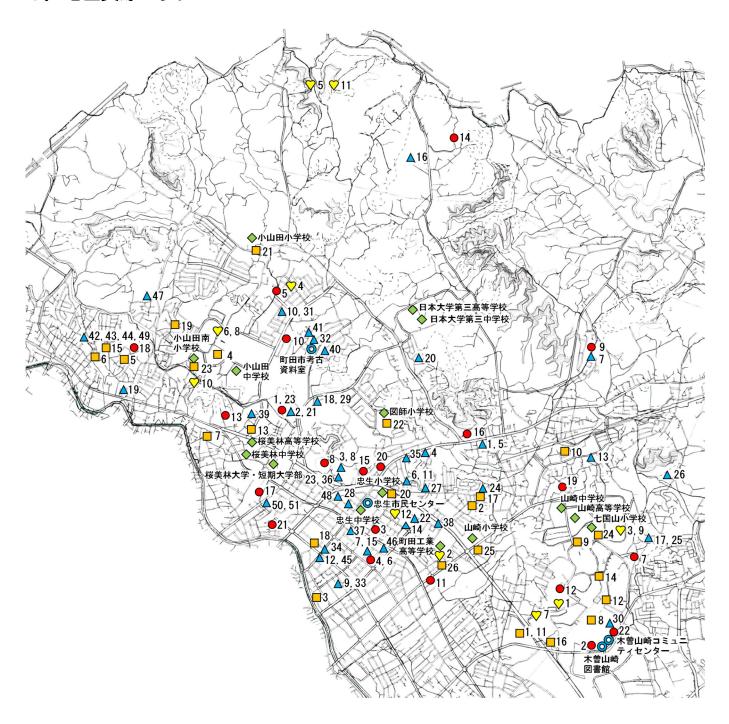
〇障がい者数:2016年は10月17日現在/2021年の身体・知的は10月1日現在、精神は2月7日現在(実績値)

〇町内会・自治会:4月1日現在

●備老●

- ※1 要介護認定率は参考数値(要介護者数に64歳以下も含むため)
- ※2 要支援1~要介護5を持つ方のうち、日常生活自立度Ⅱ以上の方
- ※3 障害者手帳の所持数
- ※4 町田市町内会・自治会連合会に加盟している団体数 ()内は非連合を含めた値
- ※5 各年10月1日現在。忠生地区の数値は、該当町名を含む団地人口・世帯の合計(小山田桜台団地(小山田桜台1・2丁目)、山崎団地(山崎町))。市全体は、東京都住宅供給公社と都市再生機構の団地人口・世帯の合計。
- ※6 2021年の認知症高齢者数は、新型コロナ感染症の特例で、介護度をそのまま1年延長している方は主治医意見書が 提出されていないことと、認定調査を実施していないため、前年よりも認定者数が少ない数値となっています。

3. 地区資源マップ



【地区資源リスト】

●子ども・子育て関係の施設(■)

<地域子育て相談センター>

- 忠生地域子育て相談センター
- <保育園>
 - 2 しぜんの国保育園
 - まなざし保育園
 - 桜台保育園 4
 - 子どもの森保育園(本園)
 - こっこのもり保育園
 - 町田ときわ保育園
- 8 たかね保育園 9 たかね第二保育園 10 ユニケ保育園
- 11 市立山崎保育園
- 12 カナリヤ保育園
- <幼稚園>
- 13 桜美林幼稚園
- <認定こども園>
- 7 回り 14 認定こども園 カナリヤ幼稚園 15 認定こども園 子どもの森幼稚園 16 認定こども園 正和幼稚園
- 17 町田自然幼稚園
- <家庭的保育室(保育ママ)>
- 18 つぼみ保育室
- <学童保育クラブ>

- 23 桜の森学童保育クラブ
- 24 七国山学童保育クラブ 25 山崎学童保育クラブ
- <子どもセンター・子どもクラブ>
- 26 子どもセンターただON

●高齢者·介護保険関係の施設(●)

- <相談>
 - 忠生第1高齢者支援センター
 - 忠生第2高齢者支援センター
- 3 忠生あんしん相談室
- < 小規模多機能型居宅介護>
- 4 小規模多機能ホーム秋田高城
- <認知症グループホーム>
- 5 認知症高齢者グループホームぬくもりの園
- グループホーム秋田高城
- 花物語まちだ
- <特別養護老人ホーム>
- 8 友愛荘 9 サルビア荘
- 10 町田誠心園
- 11 かりん・町田 12 グランハート悠々園
- <介護老人保健施設>
- 13 マイライフ尾根道
- <有料老人ホーム(特定施設)>
- 14 コンフォートロイヤルライフ多摩 15 ベストライフ町田図師の杜
- イリーゼ町田図師の丘
- 17 アズハイム町田 18 エクセレント町田
- <有料老人ホーム(住宅型)>
- 19 福寿まちだ山崎
- 20 ピアホーム町田
- 21 福寿まちだ根岸
- <高齢者福祉センター(ふれあい館)>
- 22 ふれあいくぬぎ館 23 ふれあい桜館

●障がい者・福祉関係の施設(▲)

- <障がい者支援センター>
 - 1 忠生地域障がい者支援センター
- <相談支援>
 - 2 相談支援事業所かけはし
- <計画相談支援>
 - 3 相談支援センターすばる町田

- 4 相談支援センターあい羽
- 5 とびら
- まちのひ相談室
- <短期入所•施設入所支援•生活介護>
 - 町田荘
 - 8 町田福祉園
- <短期入所(ショートステイ)>
 - 9 まいん
- 10
- ショートステイアイビー ショートステイ グリーングラス ショートステイ クレヨン レッド館 12
- 13 きららアルパカハウス
- < 生活介護(通所) >
- 14 ひかり療育園
- サポートセンター町田とも
- プラナスクリエイティブセンター
- かがやき・あい 17
- 18 花の家
- 19 しんわ常盤支所
- <自立訓練>
- 20 宿泊型自立訓練すてっぷ
- <生活介護(通所)・就労移行・継続支援>
- 21 町田市大賀藕絲館
- 22 町田市美術工芸館
- <就労移行・継続支援>
- 23 森公房
- 24 町田おかしの家
- 25 かがやき・きぼう 26 こころみ
- 27 富士作業所
- 28 富士清掃サービス
- 29 花の家
- ノーマライゼーションK 30
- <共同生活援助(グループホーム) >
- 31 はくほうホームアイビー
- はるかぜ
- 33 まいんA、B
- グループホームあすなろ 34
- おはな 35

36

38

- ばろん 37 ケアホーム愛の鈴Ⅰ、Ⅱ しえる
- しえる常盤 39 40
- しんわ町田ホーム 41 しんわ下小山田ホーム
- 42
- しんわ常盤第一ホームしんわ常盤第二ホーム 43
- しんわ常盤第三ホーム 44 にじ/レッド館 あんど
- 45
- 46 しんわ上小山田ホーム 47
- 48 シンセイ忠生
- いちごテラス町田常盤町 49
- 50 あいわ
- ゆうわ

●ふれあいサロン・子育てサロン(♥)

- <ふれあいサロン>
 - ふれあいサロン山崎
 - スマイルサロン
 - 3 ふれあいサロン思愛
 - 4 ふれあいサロン清住 5
 - Bamboo サロン ほっとスペースさくらさくら
 - ふれあいサロンこすもす
- <子育てサロン>
 - 8 小山田桜台ふれあいサロン
- 親と子のほっとサロン「おもちゃ箱」
- 10 なないろのお家
- しぜんな子育て~ゆるっと~ 11
- 12 ふれあいサロン「てとて」

【資源マップ上記載の凡例】

- ●教育施設(◆)
- ●その他の公共施設(○)

4. 地区別懇談会の経過

(1) 忠生地区 地区別懇談会

① 第3次町田市地域福祉計画策定のための住民懇談会(2016年1月)

一 地区の課題 -

- ・高齢化への対策が必要である
- ・障がいの方への支援、理解が必要
- ・ 孤立化している人がいる
- 子育て中の親への支援が必要である
- ・ 地域活動の担い手が不足している
- 町内会・自治会の加入率が低い・担い手がいない
- ・新旧住民の交流が進んでいない
- 活動場所・拠点が少ない
- ・交通の便がよくない 等

- 今後地区で検討していくこと -

- •見守り活動、訪問の充実
- 担い手の負担軽減、人材募集
- ・多世代交流・イベントづくり
- 若い世代向けのイベントの実施
- ・交流機会・魅力的なイベントづくり
- ・情報発信の強化(SNS、ホームページ)
- ・ 教育機関との共同企画の実施
- 空き家・学校・自治会館等の活用
- ・他団体・他地域との交流・情報共有
- ・ 交通機関の整備

地区別懇談会の結果を踏まえた「地区の方向」

- 地域で困っている人を専門機関へつなぐ仕組みづくりが必要である
- 地域活動をするための拠点の整備が必要である
- 多世代が地域に関われるような仕掛けづくりが必要である

(第3次町田市地域福祉計画 第2部地区活動計画より)

※ 2017 年度以降、第3次町田市地域福祉計画、町田市社会福祉協議会の第四次地域福祉活動計画に 基づいて、市内10地区で地区別懇談会を開催しています。

② 2017年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ: だれもが気軽に集える地域の居場所づくりについて

話し合いのテーマ:

①:誰が集うのか?

②:気軽に集える居場所の条件とは?

【ご意見(抜粋)】

①:元気な高齢者、障がいのある方、 支援の必要な高齢者、地域と接点がない方、 知り合いがなかなかできない方、 子育て中の親子 等

②:自宅から徒歩圏内、

自由に使うことができる、

気軽に相談ができる、

空き家や既存施設等の地域資源を活用 等



地区別懇談会の結果を踏まえた、 つながりづくりに向けた方向性とポイント

• 居場所として利用できる地域資源の

方向性 ・多様な地域住民がそれぞれの立場で役割が持てる居場所づくりの検討 ・社会資源のリスト化と情報発信・地域住民による居場所づくりの検討会の開催

(地区活動計画 2017 年度版より)

地区別懇談会のテーマ: 誰もが気軽に集える地域の居場所づくりについて

話し合いのテーマ:

①:自分の所属団体で開催している居場所または 欲しい居場所

②:①を開催していての課題・開催するにあたって の課題

【ご意見(分類)】

①:【高齢者】

現在:高齢者支援センターの講座 等 希望:あんしん相談室のイベント:講座 等

【共通】

現在:町内会の集会所、会館やイベント 等 希望:フォレスト常盤、自宅開放の活用等

【子ども】

現在:子どもセンター、子育てひろば 等

希望:身近な子どもの遊び場 等

【障がい者】

希望:車いすでスポーツができる場所

②:人の課題、場所の課題、情報の課題、

しくみ・その他の課題

地区別懇談会の結果を踏まえた、 今後の方向性と具体的取組み

具体的

取組み

方向性 ・地域資源マップの作成。

【社会福祉協議会】

- ・忠生第1、2高齢者支援センター、障 がい者支援センター、地域子育て支援 センター、社会福祉協議会が資源を持 ち寄り、地域資源マップを作成する
- 関係機関のネットワーク(つながり) の構築

【高齢者支援センター】

各地域での小規模な地域支え合い会議 を開催し、地域のネットワークづくり を行う

(地区活動計画 2018 年度版より)

④ 2019 年度 地区別懇談会

地区別懇談会のテーマ:

誰もが気軽に集える地域の居場所づくりについて ~わがまち知ろうマップ・作っちゃいました~

話し合いのテーマ: 忠生地区にあったらいいなこんなこと 自分もできるこんなこと

【ご意見(抜粋)】

【つきそい】:

高齢・障がい・子ども・地域が相互に交流できる場 や機会

【高齢者】:

高齢者が集える場所、

高齢者施設内でも催し物など工夫している 等

【障がい者】:

障がい者と交流できる場所 →色々な人がいることを理解

【子ども・子育て】:

子どもがボール遊びをできる場所があると良い、 小中高校生と様々な学生が集える場 等

【情報】:

忠生バスツアー忠生地区を知ろう!、

施設開放していること自体知らない人が多い等

【場所】:

気軽に集まれる場所が少ない、 顔見知りになれる場所 等

地区別懇談会の結果を踏まえた、 今後の方向性と具体的取組み

方向性

- •地域資源マップのブラッシュアップを 行います。
- ・ 地域資源マップの活用方法を検討 します。

具体的 取組み

- ・ 地区別懇談会で地域資源マップの ブラッシュアップを行います。
- 地域資源マップの周知や掲示の方法を 地域の方と検討を行います。

(地区活動計画 2019 年度版より)

2019年度の地区別懇談会は、忠生第1、2 高齢者支援センター、障がい者支援センター、 地域子育て支援センター、社会福祉協議会が持 つ地域資源の情報を持ち寄り作成した「地域資 源マップ」を見ながら話し合いを行いました。

話し合いの結果を受けて、地区別懇談会後に 「地域資源マップ」のブラッシュアップを進め ています。



⑤ 2020年度 忠生地区 地区別懇談会等についてのアンケート

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため 10 地区すべてで地区別懇談会の開催を中止し、地区ごとにアンケート調査を実施しました。

当アンケート調査では、これまでの地区別懇談会で話し合いを行ってきた「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」とコロナ禍における地域活動の状況等を聞いています。

【回答者の基本属性】

図表 回答者の年齢

		98件回答
1	10代	0.0%
	20代	1.0%
	30代	1.0%
4	40代	5.2%
	50代	14.4%
6	60代	30.9%
7	70代	34.0%
8	80歳以上	11.3%
	無回答	2.1%

図表 回答者の所属団体(複数回答)

		98件回答
1	町内会·自治会	32人
2	民生委員•児童委員	25人
3	青少年健全育成地区委員会	12人
4	NPO法人	7人
5	ボランティア団体	10人
6	ふれあいサロン・子育てサロン	人8
7	小・中学校	10人
8	小·中学校PTA	0人
9	老人クラブ	17人
10	障がい当事者会・家族会	0人
11	社会福祉法人	7人
12	保育園•幼稚園	4人
13	高校・大学	4人
14		7人
15		5人
16	その他	人8
	無回答	2人

【「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」と地区別懇談会について】

●「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」の活用と更新についての意見(自由回答の抜粋)

<「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」の活用方法>

- 資源マップを相談者に対してお渡しする事ができると思う。訪問時に配布するのも1つの方法と思う。
- ・自治会館に掲示したい。
- ・防災のために活用したい。
- ・交流の場を求めている方、自宅にいて外出をしない方にこんな場所があるので行ってみたらと声かけをしたい。

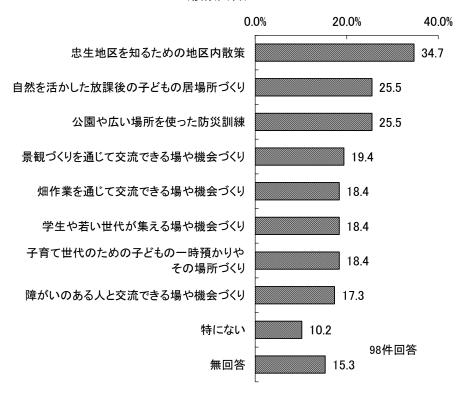
<「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」の更新方法>

- 連絡先、資源を利用して活動しているグループの紹介とどこかでリンクしていれば使いやすくなる。ウェブがあるとアクセスしやすくなる。
- ぜひ家庭的保育室も入れてほしい。コロナ禍においては、小人数の関わりを求めるご家庭が多く、また、 ここで母親学級を求めていらっしゃる声を多数聞く。
- ・住所、連絡先が掲載できたら良い。QRコードを使い、データでアクセスできたら良いのではないか。
- わかりやすいマップになっているので、時折更新していただきたい。
- このマップでは、どこに何があるかわかるが、具体的内容がわからない。それぞれの資源を、地域の人が どんな時、どんな形で利用できるか、わかりやすい案内がほしい。

●2019 年度の地区別懇談会で出た意見を踏まえて、今後、やりたいこと

「地区内散策」が最も多く、「子どもの居場所づくり」、「防災訓練」が続いています。

図表 2019 年度の地区別懇談会で出た意見を踏まえて、今後、やりたいこと (複数回答)



●地区別懇談会で取り入れてみたいテーマ(自由回答の抜粋)

<「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」について>

- ・アンケート結果をもとにして、「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」をより活用できる形にしていくことができたら良いと思います。
- 資源を利用にどう結びつけていくかが大事。地域資源の利用や「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」を 活用できる仕組みが必要。

<地域での孤立対策>

- ・見守りに関すること。
- 地域で孤立にならない環境づくり。
- 地区内で孤立している高齢者世帯への声かけのノウハウや成功体験を聞きたい。

<地域活動・ボランティア活動>

- コロナで活動が制限されている中で、どんな活動を行ったか。
- 安価で来てくれるボランティアの団体や個人の検討。

<地域づくり>

- 高齢者が多くなる中で、住みやすい安心して住める地域であう為の取組み。
- ・この地域の傾向・特徴を加味し、対応できる地域づくり。
- 年代・世代別で隔たりを作りたくないので、お互いを理解できるような地域環境づくりなど。

<居場所づくり>

・ 多世代が集える機会や場所づくり。

<防災>

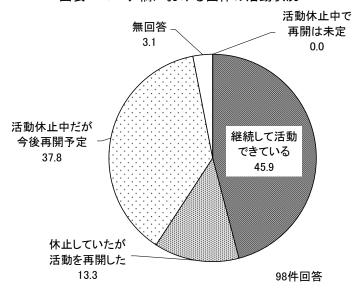
防災、災害対応について。

【コロナ禍における地域活動の状況について】

●コロナ禍における団体の活動状況

継続して活動できている団体は4割半ばとなっています。

図表 コロナ禍における団体の活動状況



●コロナ禍での活動でつながりを絶やさないための工夫(自由回答の抜粋)

<オンラインの活用>

- SNSを使っての保育の様子の発信。
- 子育て支援の動画を配信している。
- · Zoom 会議。
- 活動自体にはあまりコロナの影響はありませんでしたが、コロナにより会員が減ってしまったというのはあった為、SNSを用いて団体の情報発信頻度を増やし、新規会員獲得に努めました。

<広報・連絡方法の工夫>

- ・掲示板、回覧、ポスティングの利用。
- ・ 会報の内容を工夫。
- ・保護者と連絡帳・お手紙のやりとりや職員との健康チェック。

<活動方法の工夫>

- •屋外活動を人数制限して実施。
- 世代間の交流が出来なかったので、老人ホームの訪問などは連絡を取り合い、プレゼントだけ渡したり、 玄関先のみで交流したりなどの工夫をした。
- ・対面(訪問)は控えているが、電話等でのやりとりは行なっている。
- 新しい生活様式にあわせた、新たな活動を計画、実施している。

●オンラインの活用状況

オンラインを活用しているのは半数程度となっています。

無回答 3.4% 6.9% 活用の予定は ない・したくない 36.2% 今後、活用の 予定・したい 5.2%

図表 オンラインの活用状況

●オンラインを活用するにあたって希望する支援(自由回答の抜粋)

<オンライン活用の講習>

- Zoom 講座、LINE講座などを開催して、基本的な操作を学ぶ場が必要と思います。できたら公的な場での講座(無料)がほしい。
- ・ 実施する為の機材、やり方等のノウハウがよく解らない。
- ・ 使い方の詳しい指導があれば良い。
- 自治会、老人会等で活用を考え、一早くコロナ禍で検討に入ったが進まず、活用例、実績例など紹介してほしい。

<オンライン環境等の整備支援>

- PC周辺機器及びネットワーク構築費の助成など。
- Zoom やLINEは全員が使用できる環境にないので、全ての人が使用できるようなサポートがあればありがたい。
- タブレット端末の購入支援、WIFI機器の設置、大型モニタ購入支援等をお願いしたい。

アンケート結果を踏まえた今後の方向性・具体的取組み

方向性	・地域住民の資源マップを活用します。
い回江	・住民主体の活動拠点の活用を進めます。
具体的	・アンケート結果を参考に資源マップの活用方法の具体案を地区別懇談会で検討し
取組み	ます。
	(地区注動計画 2020 年度版上的)

(地区活動計画 2020 年度版より)

(2)5年間を通して生まれた取組み

13

19 🏙

20 👪

21 1

22 🏙

24

25

E

フォレスト常盤

常盤町内館

大泉寺

あらぐさ

上根油計

小山田会館

清住の杜町田

多摩丘陵病院

大谷里山農園

プラナスクリエイティブセンター

町田ときわ保育園

40 db 41 db

4 3 3

0

5

46

4

49

50 🚺

diffe

2 3 4 6

E

コミュニティはうすシナモン

ナカミチ児童デイサービス忠生

グループホームしえる

壽量寺

森工房

町田福祉園

箭幹八幡宮

富士清掃サービス

根岸町内会館

忠生小学校

ドレミの仲間

- ●2018 年度の地区別懇談会の中で地域資源を整理したマップを作りたいという意見が参加者からあがりました。地域資源マップの作成に向け、高齢者支援センター(忠1・忠2・堺2)、忠生地域障がい者支援センター、子どもセンターただ ON、社会福祉協議会が協力しながら、各センターが把握している集い場情報をまとめ、資源マップのたたき台を作成しました。
- ●2019 年度の地区別懇談会では、日蓮宗壽量寺や町田福祉園の施設の地域開放の取り組み事例を紹介し、 身近にある集い場情報の追加や忠生地域でこれからやってみたいことなどを話しあいながら、資源マップ のブラッシュアップを行い、「わがまち知ろうマップ(資源マップ)」を作成しました。
- ●「防災のために活用したい」など資源マップの活用法ついても意見があがっています。



65] T

66 3 2

67 1

68

71 11

2 ▮

72 **(b)**

75

di

69

70

73

富士作業所ベーカリーひあたり

コミュニティセンター忠生

町田おかしの家

町田工業高校

♠
♠ きららデイリハてをつなごう

忠生市営住宅

ユニケ保育園

忠生公園

子どもセンターただON

山崎第2スポーツ広場

山崎小学校

ė

<u>22</u>

93

94 🗰

95 11

*

97 🚺 📇

4

69
**

100

アイ・らんど忠生

たかね保育園

プラスハート

コミュニティcafe バル リレイス

カフェとうどん・そば「かわせみ」

忠牛第2高齢者支援センター

地域子育て相談センター

町田の丘学園山崎校舎

桜美林大学山崎校舎

木曽山崎センター

市立山崎保育園

みんなの広場

- ●町田・ワーカーズまちの縁がわ小山田桜台からの「小山田桜台団地商店街の空き店舗を活用して、地域の 方が気軽に訪れることができる皆の居場所をつくりたい」という話を受け、市、高齢者支援センター、社 会福祉協議会から助成金等の情報提供を行いました。また、店舗借用に関して、借用書類の作成に協力し ました。「ほっとスペースさくらさくら」として拠点の整備が整った現在は、地域の方のハンドメイド商品 の販売や生活支援サービス、総菜販売などを通じて、住民が交流する場となっています。また、みんなの 子ども食堂「さくらんぼう」の活動が始まり、コロナ禍でもフードパントリーやお弁当配布を実施するな どしています。
- ●2022年5月。小山田桜台まちづくり協議会、小山田桜台団地自治会連合会、町田・ワーカーズまちの縁がわ小山田桜台、桜美林大学、地域の方々が協力し、「ほっとスペースさくらさくら」のお隣の空き店舗を活用し、「地域交流スペースよりみち広場」が立ち上がりました。みんなの居場所、誰でもが立ち寄れる多世代交流の場となっています。
- ●忠生第1高齢者支援センターが担当する地域では、高齢になり車やバイクに乗れなくなると買い物や外出が困難になるという声が上がっています。移動や買い物の不便を解消するための支援として、忠生2丁目かしのみ公園からアメリア根岸ショッピングセンターを結ぶ『お買いものバスかしのみ号』が、2022年4月から毎週水曜日午前中に定期運行を開始しました。かしのみ号は老人クラブ、自治会、住民ボランティアの方、サービス事業所、地区協議会など地域の方々の協力により、約1年間のテストドライブと話し合いを繰り返し、定期運行が実現しました。
- ●パン屋では、天候などの影響によってやむを得ずパンが売れ残り食べられるのに廃棄になってしまうパン (ロスパン)が出ることがあります。山崎町にある「パンパティ」より、ロスパンの活用や地域への貢献 活動への思いを受け、地域住民へのヒアリング等を通して、今後何ができるかを検討しています。
- ●シーアイハイツ町田たすけあいの会では、ちょっとした困りごとを住民同士で支える生活支援活動を継続しています。

5. 地区協議会の取組み

(1)設立日•構成団体

<設立日>

●2015年5月22日(市内6地区目)

<構成団体>

●忠生地区町内会・自治会連合会(26町内会・自治会)、忠生第一地区青少年健全育成地区委員会、忠生第五地区青少年健全育成地区委員会、小山田地区青少年健全育成地区委員会、忠生第一地区民生委員児童委員協議会、忠生第1高齢者支援センター、忠生第2高齢者支援センター、町田市老人クラブ連合会忠生支部、町田市子ども会育成会連絡協議会、町田市消防団第4分団、桜美林大学、日本大学第三高等学校・中学校、山崎高等学校、町田工業高等学校、忠生中学校、山崎中学校、小山田中学校、図師小学校、忠生小学校、山崎小学校、小山田南小学校、小山田小学校、七国山小学校、町田市社会福祉協議会、町田水泳協会、町田地区保護司会、忠生地域障がい者支援センター、ボワ・すみれ福祉会、インターナショナルスポーツネットワーク、町田市立室内プール指定管理者、子どもセンターただのN(オブザーバー)、町田警察署忠生地区交番(オブザーバー)、町田消防署忠生出張所(オブザーバー)、忠生市民センター(オブザーバー)、町田市議会議員(オブザーバー)、「30団体(オブザーバー除く))

(2) 地区協議会のこれまでの主な取組み

事業名	概要	詳細(事業目的など)
広報事業	・広報紙作成・地区協議会の PR・ホームページの充実	忠生地区協議会の活動を PR することで、地域のつながりを意識してもらい、地域での活動に参加するように促していくことを目的とする。
交流親睦事業	「忠生子どもフェスティバル」の 開催	地域の子どもたちの活動を紹介し、地域で子 どもたちを育てていく気運の醸成を図るとと もに、地域におけるつながりを深めることを 目的とする。

6. 市民アンケート調査の地区別集計結果

(仮称)町田市地域ホッとプラン策定の基礎資料とするため、地域福祉に関する生活実態 やご意見などを把握することを目的として、アンケート調査を実施しました。

調査対象:18歳以上の町田市内在住者2,000人

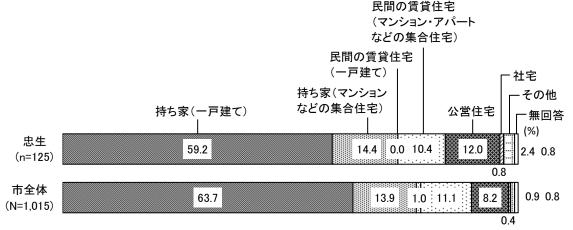
調査時期:2020年2月から3月

(1)基本属性

年齢は平均60.3歳(全体は58.6歳)、職業は就労していない人が46.4%(全体は43.8%)である。

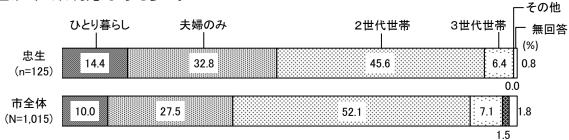
◆住まいの形態

・ 住まいの形態は「公営住宅」が12.0%と1割を超えている。



◆家族構成

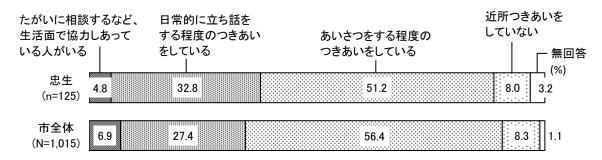
・ 家族構成は「ひとり暮らし(14.4%)」、「夫婦のみ(32.8%)」の割合を合計すると 47.2%と「2世代世帯(45.6%)」よりも多い。



(2) 地域での暮らし

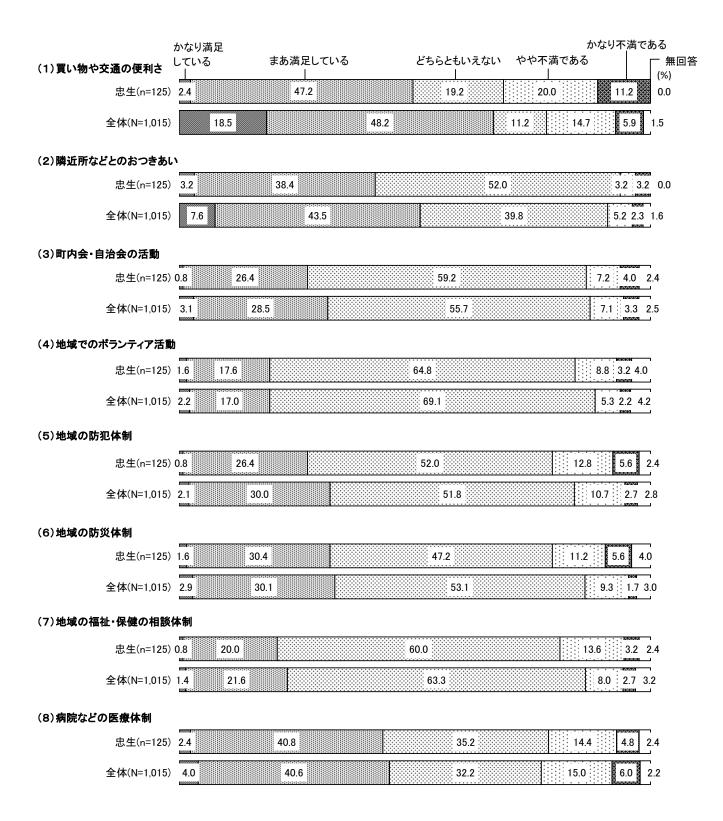
◆近所つきあいの程度

近所つきあいの程度は「日常的に立ち話をする程度のつきあいをしている」が32.8%で全体を5.4 ポイント上回っている。



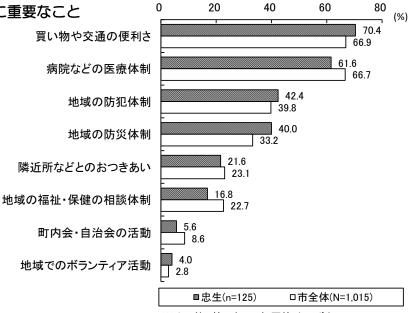
◆地域の暮らしやすさについての満足度

- ・ 地域の暮らしやすさについて、「かなり満足している」と「まあ満足している」を合計した割合は、『買い物や交通の便利さ』が5割弱、『隣近所などとのおつきあい』、『病院などの医療体制』が4割強となっている。一方、『町内会・自治会の活動』、『地域の防災体制』、『地域の福祉・保健の相談体制』は2割未満となっている。
- ・ 全体と比較すると、ほとんどの項目で全体より満足度が低くなっており、特に『買い物や交通の便利さ』では全体を17.1 ポイント下回っている。



◆地域で安心して暮らしていくために重要なこと

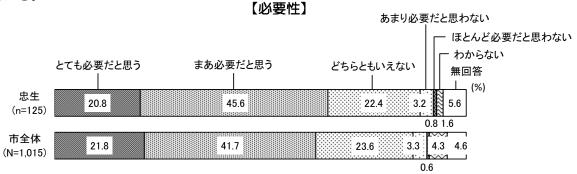
- ・ 地域で安心して暮らしていく ために重要なことは、「買い物 や交通の便利さ」が最も多く、 「病院などの医療体制」、「地域 の防犯体制」が続いており、上 位3項目は全体と同様である。
- また、「地域の防災体制」は 40.0%で全体よりも6.8ポイント高く、「地域の福祉・保健の相談体制」は16.8%で全体よりも5.9ポイント低い。

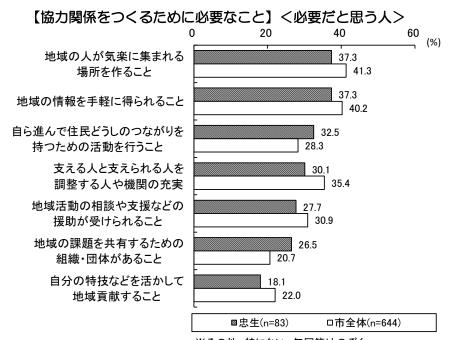


※その他、特にない、無回答はのぞく

◆住民同士の自主的な協力関係の必要性、協力関係をつくるために必要なこと

・ 住民同士の自主的な協力関係の必要性について、「とても必要だと思う」と「まあ必要だと思う」と回答した人の合計は66.4%であり、全体を2.9 ポイント上回っている。また、必要だと思う人に必要なことをたずねたところ、上位2項目は全体と同様であり、「地域の人が気楽に集まれる場所を作ること」と「地域の情報を手軽に得られること」となっている。また、「自ら進んで住民同士のつながりを持つための活動を行うこと」、「地域の課題を共有するための組織・団体があること」が全体を上回っている。



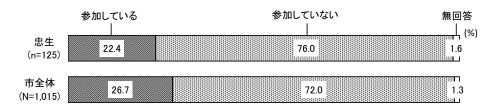


※その他、特にない、無回答はのぞく

(3) 地域活動・ボランティア活動

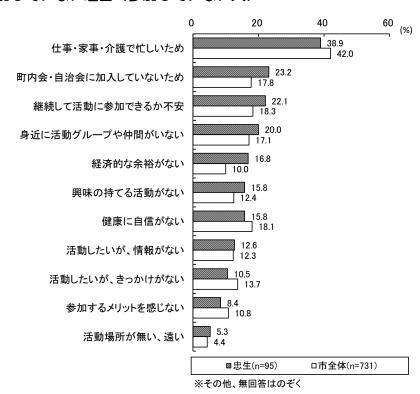
◆地域活動・ボランティア活動への参加状況

・ 地域活動・ボランティア活動に参加している人は、22.4%であり、全体を4.3ポイント下回る。



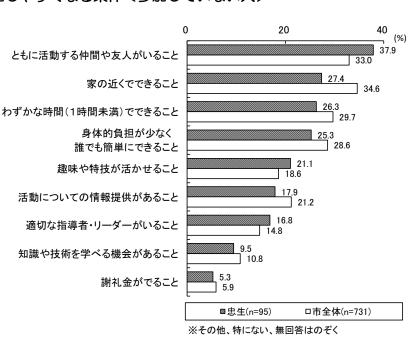
◆地域活動・ボランティア活動に参加していない理由<参加していない人>

- ・ 地域活動・ボランティア活動 に参加していない人にその 理由をたずねたところ、全体 と同様に「仕事・家事・介護 で忙しいため」が最も多く、 それに続く上位2位から6 位までが全体を上回ってい る。
- 特に「経済的な余裕がない」 は6.8 ポイント、「町内会・ 自治会に加入していないた め」は5.4 ポイント全体より 高い。



◆地域活動・ボランティア活動に参加しやすくなる条件<参加していない人>

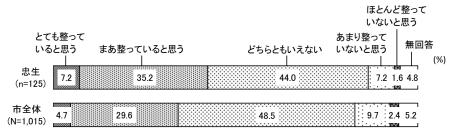
- 地域活動・ボランティア活動 に参加していない人に参加 しやすくなる条件をたずね たところ、「ともに活動する 仲間や友人がいること」が最 も多く、全体と比較して 4.9 ポイント高い。
- 一方で、全体1位の「家の近くでできること」は2位であり、全体より7.2ポイント低い。



(4)福祉サービス、福祉施策

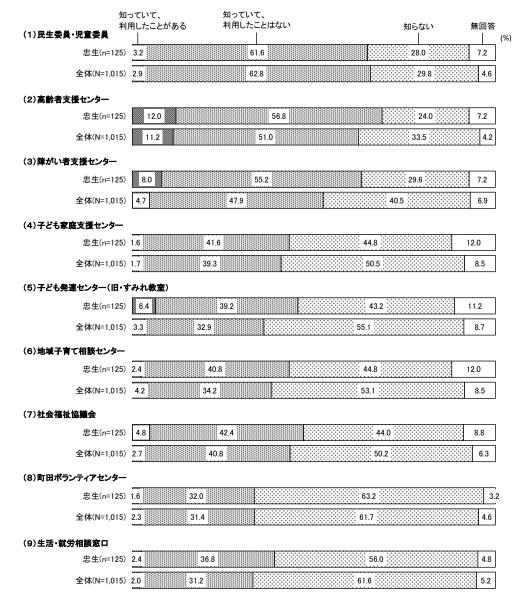
◆町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況

・ 町田市の福祉サービスの利用環境の整備状況は、「とても整っていると思う」と「まあ整っていると思う」を合計した割合が42.4%と、全体と比較して高い。



◆福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度・利用状況

- ・ 福祉に関わる相談窓口・機関等の認知度(「知っていて利用したことがある」と「知っていて、利用したことがない」の合計)は、『民生委員・児童委員』、『高齢者支援センター』、『障がい者支援センター』 で6割以上となっている。
- ・ 全体と比較すると、『民生委員・児童委員』、『町田ボランティアセンター』が同程度の割合である以外 は、ほとんどの相談窓口・機関等の認知度が全体を上回っている。



クウンミーティング(地区別意見交換会)の結果

(1) 実施目的・参加人数・主な参加者

く実施目的>

●2022年4月から始まる新たな市の基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定に 向けて、2019年に町内会・自治会や地区協議会を対象の中心として、市内10地区でタウンミーティング (地区別意見交換会)を実施し、それぞれの地域にお住いの方と一緒に、住んで良かったと思えるような、ま ちだの未来を考えました。

<参加人数(グループ数)>

- ●33人(5グループ)
- <主な参加者>
- ●町内会・自治会、子ども会、地区協議会、PTA、青少年健全育成委員、中学生。

(2) 住みたい(なりたい) まちの姿とご意見

① グループごとの話し合いから出た「住みたい(なりたい)まちの姿」

【A グループ】安心できるつながりのある帰ってきたくなるまち

【Bグループ】でかけたくなるまち

【Cグループ】遊び場とつながれる場に行きやすい町

【D グループ】やさしさつながる町づくり良い所を発信する町田

【Eグループ】子どもが活動できる場所が多いまち

② タウンミーティングでいただいたご意見

<地域とのつながり>

- 町内のコミュニケーションが防犯につながる。
- 場の設定を市にして欲しい(交流のきっかけづくり)。
- 永く続くイベント (親子でも共通の経験)。
- ・地域のつながりお互いを知るきっかけが必要。
- 地域でもちつきとかあったら参加したい、子どもに参加させたい。

〈子ども・子育て支援〉

- 子どもを預けられる場所あるといい(働きやすくなる)。
- スポーツ選手と子どものふれあい交流が生まれる場が欲しい。
- 子どもが外に出て色んな体験が出来るまち。
- ・悪いことを悪いと教えられる環境。

・小学生の会う(集う)場あまりない。

自然の中で子ども達が遊べる環境。

子どもの医療費もっと少なく。

・ 多子世帯への補助。

- <子どもの遊び場・居場所>
- 公園·子ども向けのイベントあったらいい。
- スポーツ公園があったら子どもも遊びやすい。
- ただONのような場所がもっと欲しい。
- 子どもの居場所を大事にして、大人がマナーを教えないといけない。

<移動環境>

- 車がなくても移動できるようになってほしい。
- スクールバスあったらいい。
- ・ハブ状の(交通)拠点があれば便利。
- <働きやすい環境>
- フリーランスに優しい、自営業に優しいまち。
- テクノロジーが発達したまち。

- モノレール早く来たらいい。
- バスの路線が複雑で子どもにもわかりにくい。
- ・交通網の整備(バスは子ども1人で乗せるのは不安)。
- 個人経営のお店がもっとあれば良いのに。

<地域意識>

- 町田が一体となってスポーツを推進する雰囲気(風土)。
- シンボル(名物)ふるさとに誇り、愛着。
- 町田のすごい人をもっと知ってもらう、発信するとよい。

(出典:各種ワークショップ等の取組み状況報告より)

URL: https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/sinokeikau/machida_miraizukuri_vision2040/kyodokento20201101.html

8. 過去5年間で感じる地域の良い変化(強み)・悪い変化(弱み)

- ・ 2021 年度の地区別懇談会の開催にあたり(新型コロナウイルス感染症拡大の影響により 2022 年度に延期)、参加希望者の方に事前アンケートとして、過去5年間で感じる地域の良い変化(強み)・悪い変化(弱み)をたずねました。
- ・以下は、回答いただいたご意見を表現はそのままで、主な意見を抜粋して掲載しています。

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
人(世帯)	<2021 年度に回答いただいたご意見> ・ 若い人の人口が増えた。 ・ 桜美林大学ができたことで、若い人の出入りが増え、地域に活気が出た。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 近隣住民の方が、危険を知らせてくれた。	<2021 年度に回答いただいたご意見> コロナにより外出することが減り身体機能が低下した人が増えた。 空き家。 <2022 年度に回答いただいたご意見> 人口が減っているように思います。 街から子どもが少なくなった。 団地の空き家が増えたこと。
つながり、 意識	<2021 年度に回答いただいたご意見> 地域のことを住民同士で考える機会が持てる。 障がいがある方が街中で困っていると、声をかけてくれる。 人があたたかい。 <2022 年度に回答いただいたご意見> 障がいのある方の暮らしを、温かく見守ってくれる地域性に感謝しています。 	<2021 年度に回答いただいたご意見> 若い世代の地域との関わりが無くなっている。 コロナ禍の影響、高齢化のため、人とのコミュニケーションが難しくなってきた。 特殊サギ等もあり、固定電話での交流が難しい。 2022 年度に回答いただいたご意見> 町内会員の組織率が上がらず、地域内のつながりや、情報共有が薄れているように感じる。 コロナ禍により地域の方との関わりがなくなってしまっている。
活動	 く2021 年度に回答いただいたご意見> ・町トレ継続参加者が多い。 ・町トレやボッチャなど自主活動グループが増えた。 ・子ども食堂等、地域による見守りが広がった。 ・朝の小学生見守りなどの声かけが日常になった。 く2022 年度に回答いただいたご意見> ・地域住民と協力してお買い物バスが走り始めた。 ・会議や行事にオンライン参加できるようになり、時間が有効活用できるように感じる。 ・コロナ感染の心配もあり、会議などの集まりを短時間で効率的に行っている。 ・町内会活動が活発になってきている。 ・防災対策も着々と進められている。 ・次の世代へ渡していく方法を現実的に考えるようになってきている。 ・「まちピカ町田くん」対応が凄い。 ・教育機関と、地域の連携。 	えていて、残った会員で運営するのが困難になってきている。役員等の高齢化が着実に進み、担い手が見つからない状態になっている。中・高校生の職場体験をすることが難しくなってい
場所(施設)		介護サービスがあるが、表からすぐに誰でも入って

分類	地域の良い変化(強み)	地域の悪い変化(弱み)
	・集いの場を提供したいという住民がいる。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・小山田桜台地域交流スペースのオープン。 ・小山田桜台団地の中に地域交流スペース開設さく らさくらが開設したこと。	
まち・交通	 <2021 年度に回答いただいたご意見> ・新しい焼却施設が完成し、周辺整備も進んだ。 <2022 年度に回答いただいたご意見> ・スポーツ公園の整備。 ・モノレールの延伸。 ・団地商店街に住民による社会福祉関係の店舗が開店した。 ・静かになった。 ・路上駐車が減った。 ・多摩モノレールの延伸経路が確定したこと。 ・町田 3・3・36 号道路の工事が進んでいること。 ・道路の拡張による、交通の安定、安全。 ・大型ショッピング施設(アメリア)ができて活気ができた。 	<2022 年度に回答いただいたご意見> ・ クリニックの閉鎖。 ・ 道路やインフラの悪化。 ・ 公園や道にゴミが増えた気がする。 ・ 公園の木の伐採で日陰が減り夏季は暑い。 ・ 商店の変わりが早い。
その他	<2021年度に回答いただいたご意見> コロナ禍の影響と高齢化のため、よい変化は感じられない。 <2022年度に回答いただいたご意見> 地域との連携を重視して行こうとする行政の姿勢は感じられる。 防災に対する行政の意識が強化された。 デジタル化も含めて、行政の情報を周知して行こうとする姿勢が色々な所に現れている。 いろいろな取組があるインターネットで利用できるようになって便利なサービスが増えた。 公園で迷子になっていた犬の対応が速い。 竹上たえ氏木版画展がよかった。 よくわからない。 	<2022 年度に回答いただいたご意見> ・ 縦割り行政が自分の範疇で地域に連携求めてくるので、受ける地域は対応のボリュームが大きくなり過ぎて消化し切れない。 ・ 公立校の生徒が荒れている。たむろして地域の祭りで騒いだり、福祉施設の花壇を荒らす。 ・ コロナで心身機能が落ちている。